



【「医療と気候変動」のレクチャーについてのご案内】

大変お世話になっております。長州総合診療プログラム、山口県立総合医療センターの横田と申します。
「医療と気候変動」のレクチャーについてのご案内です。

Lancet は「気候変動は 21 世紀最大の健康の危機」と声明を出しており、
New England Journal of Medicine は 2022 年 11 月より気候変動の記事の連載を始めました。
健康に気候変動が大きく影響を及ぼしていると同時に、医療が気候変動に影響を与えていることについては意識する機会が少ないかもしれません。

人間と地球の健康（プラネタリー・ヘルス）のために、今日からできる具体的なアクションを交えてレクチャーでお話ししました。

ご興味のある先生は、下記の動画・資料をご覧くださいませ幸いです。

■動画

<https://us06web.zoom.us/rec/share/PCeH9nVxL6xruYJdx2gB49rCsLtPaPoQ7cbluT36kobgK4DFA7X8Ao0-ZbzDl6YA.Z814TX07ZuEORBof>

パスワード: 4@i\$z=V8

■資料

https://drive.google.com/file/d/1VxnpUEsOTUzNQXQL8KLnt0WvN9GIZk8/view?usp=share_link

JPCA 山口県支部ニュースレター

【やまぐち総合診療まつり】

JPCA 山口県支部若手医師会主催で総合診療医のリクルートを目的として、初期臨床研修医向けに、2022 年 10 月 16 日(日)に「やまぐち総合診療まつり」を開催しました。完全オンラインでの開催で、20 名前後の皆様にご参加いただきました。

午前には山口県支部の専攻医によるレクチャー(「よくわからない患者のミカタ」、「動機付け面接～患者のところが動く診療をしよう～」)を行いました。「よくわからない患者のミカタ」はミミック：頻度の高い有名な疾患のふりをした紛らわしい別の疾患、カメレオン：有名な疾患なのにそれと気付けない非典型的な症状や経過を認識する、BPS モデルを意識するといった内容でした。「動機付け面接～患者のところが動く診療をしよう～」は OARS 問診を使いこなそうといった内容でした。研修医にとってよいリクルートになったのはもちろん、専攻医にとっても良いアウトプットの機会になったのではないかと感じました。

午後は山口大学総合診療プログラムの齊藤裕之先生、長州総合診療プログラムの横田啓先生、両指導医の先

生による GIM カンファレンス「やまぐちドクターG～スゴ腕指導医の頭の中～」を開催しました。Stiff Person-Syndrome の Snap diagnosis、TAFRO 症候群の診療経験など、インパクト絶大なカンファレンスとなり、指導医の先生方のスゴさを改めて感じたひと時となりました。こんな指導医の先生方にご指導いただけて幸せだと思ふと共に、山口の総合診療の未来は明るいと感じました。

今回参加してくれた研修医の先生の中から将来総合診療医、家庭医として一緒に地域を盛り上げていく同士が誕生してくれるととても幸せだと思ひます。

(文責：JA 山口厚生連周東総合病院/柳井市立平郡診療所 陣内聡太郎)



【新家庭医療専門医試験を経験して】

2022年7月9日(土)に新家庭医療専門医の筆記試験、7月17日(日)、7月18日(月)に臨床実技試験及びポートフォリオ口頭試問が実施されました。長州家庭医療プログラム1期生である村井達哉先生、私、陣内兩名とも無事に合格し、家庭医療専門医の仲間入りを果たすことができました。ひとえに日々ご指導いただいている指導医の皆様、いい具合に突き上げてくださる後輩の皆様、そして温かい地域住民の皆様のおかげと思ひます。ありがとうございます。

臨床実技試験、ポートフォリオ口頭試問はオンラインでの開催でした。対面との違いに戸惑いはありましたが、私はちょうど COVID19 に罹患し、隔離の期間であったこともあったので、オンライン開催に救われました。ここ 2-3 年の間で診療も学会も会議も今やオンラインなしでは語れないくらいに浸透してきたと感じます。目まぐるしく変化する昨今の潮流ですが、そういった変化にも柔軟に対応できるのが家庭医・総合診療医の強みなのかなとも思っています。新しい資格を携え、今後も日本の地域医療に貢献していきたいと存じますので、今後ともご指導、ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

(文責：JA 山口厚生連周東総合病院/柳井市立平郡診療所 陣内聡太郎)

【m-HANDS 2022 開催報告】

中国ブロックでの指導医養成の報告

出雲家庭医療学センター大曲診療所 藤原和成

広島大学病院 総合内科・総合診療科 小林知貴

岡山家庭医療センター奈義ファミリークリニック 松下明

第2回 オンライン開催 2022年9月17日

【ビデオレビュー】

藤原匠平先生のビデオレビューであった。救急外来で初期研修医が高齢者の急性腹症を診察した経験について、5 micro skills を用いて振り返りを行っている場面であった。まず自己評価から聞かれ、その後も学習者の発言を途中で遮ることなく、学習者のペースに合わせて、うまく意見を聞き出されていた。学習者の発言を要約しながら、学習者自身の気づきにつなげることができていた点が印象的であった。菊地、藤原和成先生のビデオレビューも拝見させていただいた。大人縮めの件数イヤ主訴のない患者診療をした専攻医に対する指導の場面であった。相手のレベルに合わせた情報の引き出し型を意識されている点や、指導の場についても配慮されている点が素晴らしいと感じたし、one more hearth question を含めた主訴の階患者の診察法については自身も勉強になった。(陣内聡太郎)

【FD 概論とエンプロイアビリティ】

FD概論とエンプロイアビリティについてレクチャーをいただいた。医師免許は最強のポータブルスキルと言え、医師はエンプロイアビリティが高いということを認識した。どこでも働けてしまう人を引き寄せるためにはエンプロイメンタビリティを向上させる必要があり、その手段の一つとして、FD(Faculty Development)が重要であると知った。FDにより、「効果的な医学教育」ができる指導医が育つことで、プログラムや専門領域の質が向上し、魅力的な現場となる。m-HANDs もまた FD の一つであり、m-HANDs を通して、個々のレベルアップとともに、総合診療・家庭医全体のレベルアップに貢献できればと感じた。(陣内聡太郎)

【カリキュラム開発】

効果的な教育とその実践方法を考えた。受講生が各々で取り組んでいる教育活動を A4 にまとめ、それを基にワークシートへ書き込んだ。教育課題の目的を深く考えたり、教育方法を練ったり、ワークシートに沿って様々な要素に分解して考えた。陣内先生は看護学校の授業について考察し、小テストなどの知識領域からシネメデュケーションによる態度領域に及ぶ様々なカリキュラムを想定された。藤原は院内 BLS 講習会のアップデートを考察し、発言力が強いリーダーシップがなくとも各々が行動でき、円滑に蘇生処置ができる環境づくりを目標に立てた。受講後にワークシートを見直すと自分の考えが整理されており、今後の課題がみえた。(藤原匠平)

【リーダーシップ&チームビルディング】

講義とその内容についてディスカッションを行った。「釣りバカ日誌」の営業3課を例えに、チームビルディングは、Tuckman のグループの発達段階を知識として確認し、新しいチームでは具体的に最初の一か月何をすべきかを考えた。またチームの人材の多様性の大切さやそれぞれの役割について学習した。リーダーシップはリーダーとマネージャーの違い、リーダーの2つのタイプ、PM 理論、リーダーシップの文脈依存性などを学習した。セミナー終了後、「キャプテン」のアニメ映像の感想交流を SNS 上で行い、リーダーやチームのあり方を様々な視点で考えることができた。(植本真由)

第3回 オンライン開催 2022年10月15日

【模擬ティーチング】

「USPSTF アプリを使ってヘルスマンテナンス」といった内容で医学生を対象に模擬ティーチングを行った。まだ会った回数も少ないメンバーで、短期間で、オンライン上でカリキュラムを開発するのは、スケジュール調整など苦労もあったが、3人で1つのものを作り上げられた達成感は爽快だった。今回は Kemp model、Kern's 6step approach、Grlassic の基準に基づいたカリキュラム開発シートをもとに、作成を進めていった。ADDIE モデルや ARCS モデルなどの ID があることも知った。認知領域の担当であったが、技術領域の色も出ており、無意識に Scaffolding を実践していたことを認識した。指導医の先生のレクチャーを拝見させていただき事前準備の大切さ（綿密さに驚嘆）、事後評価の手法（関連度、有用度、自己効力感の3つに高く回答した人は実践度が高まる）など、学びも多かった。次回以降のカリキュラム開発は今回の学びをさらに brush up していきたい。（陣内聡太郎）

【教育困難事例】

各学習者が感じる教育困難事例を提示し、議論した。まずは DTE を鑑別するためのアルゴリズムで評価し、特に自分もしくは自分の組織の問題ではないかと問う事が重要と知った。

次に教育を工夫するための様々な方法が挙げられた。質問した相手に質問を返し、問題の本質を一緒に考え直す。自信がついた学習者はやらせてみたり、教える立場にさせてみる。指導医一人で抱え込まず、のび太力で多面的な支援を求めるなど。学習者がキャリアを積んで、権限が広がるのと共に、責任を負えるようになるための支援が必要と考えた。これらの工夫がエンプロイメンタビリティを向上させると感じた。（藤原匠平）

第4回 オンライン開催 2022年11月19日

【ビデオレビュー】

フィードバックの様子を撮影し、ビデオレビューを行った。自分のビデオレビューでは、自分がどのようにフィードバックを行っているのか客観的に知る事ができた。漠然とした発言や提案が多く、具体性をもたせることを次の目標とすることができた。他の先生のフィードバック方法をじっくりみて、良い点をたくさん発見できた。学習者に考えを促したり、具体的な次の目標をたてているところが学習者にとって「勉強になる」フィードバックだったのではないかと感じた。感情を聞いたら掘り下げしてみる、というのは、なるほど、と思い、自分も実践してみようと思った。（植本真由）

【交渉術】

交渉術には駆け引き型交渉（ソフト型、ハード型）と、原則立脚型交渉がある。原則立脚型交渉は・人と問題を切り離す・条件や立場ではなく利益に注目する・お互いの利益に配慮した複数の選択肢を考える・客観的基準に基づく解決にこだわるという4つの原則から構成される、最強の交渉術である。また ZOPA、BATNA、Bottom Line なども考慮することで余裕を持った交渉ができる事も学んだ。ワークで交渉術を実践してみて、選択肢を複数持つといったことが簡単そうで当事者になると意外と難しいなと感じた（パイの大きさを変えられなかった⇒3年間をどう分割するかしか考えていなかった）（陣内聡太郎）

【アウトプットについて】

自分らしいアウトプットをするために、各自のアウトプット方法を振り返り、参加者で共有した。発信することで日々の研鑽に用いる、エンプロイメンタビリティを向上する、といった目標があった。内容について、ぼっち専攻医の情報発信はニーズがありそうだが、外部への発信では誹謗中傷などの可能性があるという意見があった。小グループ内に発信し、良い情報を外部に発信するという意見があった。方法について、Webなどで

他者に向けて発信する方が良い人、日記などで自分に向けて発信する方が良い人など、動機づけが様々だった。自己省察が好きな人は受け身になりやすく、外部へ発信するのが得意な人とチームを組む方法があるなどの工夫も提示された。

【卒業制作とプロジェクトマネジメント】

事前課題では PMBOK について大枠を理解し、5つのプロセス群と 10 の知識エリアなどの知識を得た。プロジェクトの定義やなぜ PMBOK を学習する必要があるかを確認した。卒業制作のカリキュラム開発について、作成方法や流れを学習した。当日は再度卒業制作の作成例やプロジェクトの条件などを確認し、作成のイメージを持つことができた。(植本真由)

第 5 回は 2022 年 12 月 17 日 (土) を予定しています